

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502710		
法人名	有限会社 コミュニティさっぽろ		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	札幌市白石区菊水9条3丁目4-13 (電 話) 011-832-5620		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月24日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】 (平成22年3月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2～3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	35,000～40,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費23,000円 暖房費 (11～3月) 10,000円
敷 金	有 (家賃 2 ヶ月分) ・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (3月 8日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護 1	1 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	70 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	勤医協札幌病院、勤医協歯科診療所、恵佑会東病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内の幹線道路の近くに位置し、建物は3階建てで1階がデイサービス、2～3階が2ユニットのグループホームとなっています。建物内はゆったりとした造りで、居間と食堂が一体化し、各居室も比較的広く造られています。トイレや風呂も使いやすく、エレベーターも設置されるなど設備が充実しています。職員は利用者と家族のように関わりあい、笑顔で親しみのあるケアを実践しています。職員の多くが長く定着しており、ホーム全体で働きやすい環境を心がけています。医療面の支援体制や看護師の配置、看取りケアの準備なども整っており、利用者や家族の安心に繋がっています。独居や低所得の方も安心して利用できるよう配慮され、皆んなが家族のように楽しく過ごしています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 外部評価については、前年の「取り組みを期待したい項目」を職員間で話し合い、継続的に取り組む方針としています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 自己評価は評価表を職員全員に配布し、記入してもらい管理者がまとめ、再度職員が確認しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催され、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、利用者家族、近隣の会社などの参加をいただいています。状況報告やサービス評価、災害対策、看取りケアなどをテーマに話し合い、意見交換しています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) ユニットの入口に意見箱を設置し、意見があれば職員全員で話し合っています。また運営推進会議に家族の参加を得て意見をいただき、運営に反映しています。重要事項説明書には、ホームと国民健康保険団体連合会等の苦情・相談受付窓口を明記しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 夏場は毎日のように散歩し、会う住民の方々と挨拶を交わしています。町内会に加入し、盆踊りや夏祭りに参加しています。法人主催の夏祭りにも地域の方々や高校生に参加していただいております。1階のデイサービスに歌やハーモニカのボランティアの方々 came 時には、ホームの利用者も聴きに行っています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念には「地域との連帯を大切にする」という文言を入れています。また、職員で話し合い、ホーム独自の理念もつくっていますが、地域との関わりに関する内容は不足しています。	○	ホームの理念に、地域との交流や関わり合いに関する項目について、今後追加することを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やスタッフルームに掲示し、職員全員が理念を念頭に、みんなの笑顔や家族のような温かみのある介護を目指して日々のケアサービスを行なっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏場は毎日のように散歩し、会う住民の方々と挨拶を交わしています。町内会に加入し、盆踊りや夏祭りに参加しています。法人主催の夏祭りにも地域の方々や高校生に参加していただいております。1階のデイサービスに歌やハーモニカのボランティアの方々が来た時には、ホームの利用者も聴きに行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は評価表を職員全員に配布し、記入してもらい管理者がまとめ、再度職員が確認しています。外部評価については、前年の「取り組みを期待したい項目」を職員間で話し合い、継続的に取り組む方針としています。		

札幌市白石区 グループホーム みんなの家

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催され、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、利用者家族などの参加をいただいています。状況報告やサービス評価、災害対策、看取りケアなどをテーマに話し合い、意見交換しています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の記入方法など、分からない点があれば市や区の担当者にいつでも相談しています。運営推進会議でも地域包括支援センターより終末期ケアに関する意見などをいただいています。生活保護の関係で、市の保護課とも情報交換や相談を密に行なっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告しています。また2ヵ月に1度、各ユニットの広報誌を作成し、家族に送付しています。広報誌に載せた写真はホーム内に掲示し、利用者や来客者に見ていただいています。職員の異動も広報誌で報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットの入口に意見箱を設置し、意見があれば職員全員で話し合っています。また運営推進会議に家族の参加を得て意見をいただき、運営に反映しています。重要事項説明書には、ホームと国民健康保険団体連合会等の苦情・相談受付窓口を明記しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職が少なくなるよう、管理者が職員の話を聞いたりフォローして、働きやすい職場作りに努めています。離職がある場合でも交代する担当者と利用者が徐々に慣れることができるよう、ゆとりのある体制として、利用者のダメージを防いだり、利用者の反応を考えながら、辞めることを伝えています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修や実践者研修は年度初めに計画を立てて職員に受講させています。その他の外部研修は、その都度案内して職員に参加を促しており、研修参加後は伝達研修を行なっています。各職員の外部研修の参加頻度は以前に比べ少なくなってきました。	○	外部研修については、各職員が年に1回以上参加機会が確保できるよう、計画的な取り組みを期待します。また、内部研修についても勉強会や伝達研修の一層の充実を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム管理者会議や各種の研修に参加し、同業者と交流する機会を持っています。一方、職員はスタッフ研修などで、他のグループホーム職員と交流する機会は少なく、他のグループホームとの相互訪問もまだ実現できていません。	○	職員が他のグループホーム職員と交流する機会が持てるよう、相互訪問の実現やスタッフ研修への派遣を増やすことを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用予定者と面談し、利用者と家族にホームを見学していただき、雰囲気を感じた上で、利用を決めていただいています。利用開始後は生活に慣れていただくことを優先しながら、利用者の性格を見極めてサービス提供方法の検討をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に料理や行事の習慣、子供の頃の話などを教えていただき、職員が学んでいます。「笑顔の絶えない生活の場」作りに力を入れており、利用者と職員が家族のように接し、一緒に楽しんだり、冗談を言って笑ったりして生活しています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を確認しながらの支援を基本としています。服薬や口腔ケアなど、利用者が好まない支援については、アプローチ方法を工夫しながら、利用者の納得をいたいて支援しています。フェイスシートや基本情報をもとに利用者の好みやできることを把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を参考にアセスメントを行ない、計画作成者が職員と話し合って暫定の介護計画を作成します。その後、生活状況を見ながら本計画を作成しています。計画は家族に説明され、サインをいただいています。一方、日々の記録については、介護計画と記録の連動性がやや薄く感じられます。	○	介護計画に沿った利用者の日々の記録方法を工夫されるよう期待します。また、センター方式について勉強会を開催しているので、アセスメントシートの充実も今後期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヵ月毎に介護計画の見直しが行なわれており、利用者の状況に応じた見直しも実施されています。毎月のユニット会議でモニタリングを行ない、見直しが必要な利用者の介護計画を作成しています。モニタリングの内容は「実施と評価表」というシートに記録・整理されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食材、靴や洋服などの買物に利用者とはかかれています。訪問理美容を利用したり、他の理美容の送迎もしています。家族の宿泊希望があれば寝具や食事を提供しています。デイサービスの休みの日に1階食堂で両ユニットの食事会を行なっています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月2回の往診を受けており、24時間体制で連絡が取れるようにしています。かかりつけ医の受診で不定期な部分を通院支援しています。受診結果は個人別の欄に記載し、家族に適切に報告しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合のホームの対応可能範囲について話し合い「重度化した場合の対応に関する指針・終末期ケア対応方針」を作成し、取り交わしています。看取りの経験を持つ看護師が配置されており、経験を職員に伝えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、排泄時の声掛けに気を配ったり、居室に入る際のノックと声掛けを徹底しています。個人記録等は決められた場所に適切に保管しています。職員とも個人情報の保護に関する契約書を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはありますが、利用者が自分のペースでその人らしい生活ができるよう、ホームの都合を優先することなく体調や希望、ペースに合わせて生活支援を行なっています。起床や食事の時刻なども本人の体調に合わせて調整しています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしの髭取り、豆のすじ取り、下膳などを手伝っていただく利用者が多く、中には片付けを積極的にしていただく利用者もいます。食事前にメニューを紹介し、職員が利用者と一緒に楽しく会話しながら、食事を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね3日毎に利用者が入浴しています。中にはほぼ毎日、または2日毎に入浴される利用者もいます。入浴を拒む場合は、スタッフやタイミングを変えて促しています。入浴時や着替えの際に職員と楽しく会話して、入浴が楽しみになるよう努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室やホールの掃除、洗濯物たたみ、食事の準備等に利用者が手伝っていただいています。絵馬や短冊、クリスマスツリーなど、季節に応じた飾り物を作ったり、トランプやかるたで楽しんでいます。夕方には職員が録画した時代劇や歌番組のビデオを見て楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は毎日のように近くの公園に散歩に出かけ、買物にも行っています。冬場はホームの前で外気浴をしています。協力病院のお祭りや、花見、もみじ狩り、初詣、大型ショッピングセンターへの買物などで外出やドライブをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの玄関はボタンで開く自動ドアとなっています。自分で開け方を知っている利用者もいますが、知らない利用者もあり、ドアに近づいたときは職員が開けています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回、避難訓練を実施していますが、夜間想定 の訓練は未実施です。近隣のガソリンスタンドに 災害時の協力をお願いしており、通報システムは 消防署や職員以外にガソリンスタンドにも繋がっ ています。職員の救急救命訓練は定期的に行なわ れてはいません。	○	2回のうち1回は夜間を想定した避難訓練 を行なうよう期待するとともに、職員の定 期的な救急救命訓練の受講も期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をきめ細かく記録し、必要量が確保できるよう調整しています。献立は野菜を中心にバランスを考えて作成していますが、栄養士のチェックは受けておらず、大まかなカロリーも把握できていません。	○	各ユニットの献立について、定期的に栄養士のチェックやアドバイスをいただき、カロリーや栄養バランスを把握されるよう期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く清潔に保たれ、トイレや風呂も使いやすく設計されています。ゆったりとしたソファが離れた位置に置かれ、多数の居場所を確保しています。また壁には利用者の写真や手作りの季節の装飾が飾られています。温度や湿度、光や音も適切に調節され居心地よく過ごせるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は比較的広く、利用者の馴染みの家具や生活用品、仏壇やテレビなどが持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。居室の入り口には、部屋が判別しやすい飾りやのれんを設置しています。		

※ は、重点項目。